

# 福島県環境教育等行動計画の進行管理について

平成25年度の環境教育等の取組状況については、原子力災害に伴う放射性物質等による影響により、屋外での活動は依然として震災前の水準に回復していない状況です。屋外での活動が活発になるよう、引き続き、放射線に係る正確な情報を提供し、屋外での活動の判断をしやすい環境づくりに努めていく必要があります。

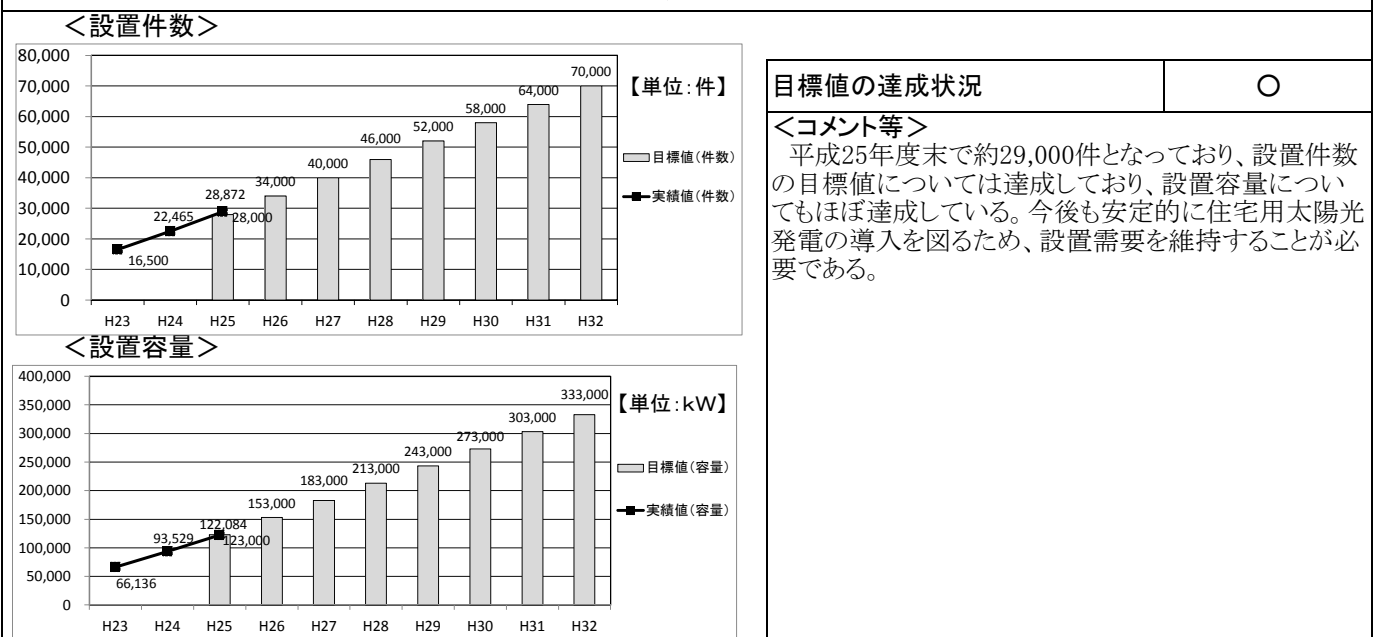
平成25年度における施策の取組状況等について、福島県環境教育等行動計画(平成26年3月策定)の施策に沿って示します。

## 1 家庭における環境教育等

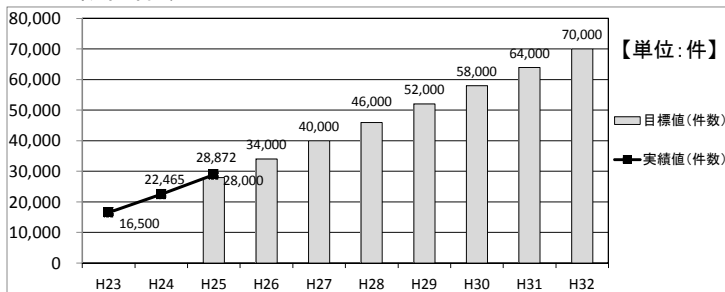
家庭における環境教育等の推進のために実施している事業の取組状況、及び環境指標の達成状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
1	猪苗代湖水環境保全活動実践事業 【親子環境学習会】	猪苗代湖・裏磐梯流域を対象として、親子で猪苗代湖の水環境保全の大切さについて学ぶ講習会を開催する。	【平成25年度】猪苗代湖の歴史や水質について学習する「親子で学ぶ猪苗代湖ものがたり」に小学生とその保護者26名が参加した。 【平成26年度】学習会開催日を土曜日とし、より多くの方に参加していただけるような企画とした。今後とも若い世代に対する環境保全への啓発活動を充実させていく。
2	福島県放射能測定マップによる測定結果の公表	県内全域で実施している放射線モニタリングの結果を、マップ上に分かりやすく公表する。	【平成25年度】空間線量率及び放射能濃度の測定結果を公表しており、約40万人が閲覧した。 【平成26年度】引き続き、測定結果の分かりやすい公表に努めていく。
3	再生可能エネルギー普及拡大事業 【住宅用太陽光発電設備設置補助事業】	再生可能エネルギー導入拡大のため、県民に身近で比較的容易に導入できる住宅用太陽光発電について、その設置補助を実施する。	【平成25年度】県内に住宅を有する個人等がソーラーパネルを設置するにあたり補助を行い、平成25年度は約6,500件補助金を交付した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
4	復興ふくしまエコ大作戦！みんなでエコチャレンジ事業(家庭版)	節電、節水、省エネ家電・機器の購入及び「福島エコ道」の実践に取り組んだ世帯に対し、取組成果に応じた賞品を提供し、活動の一層の促進を図る。	【平成25年度】1,278世帯がエコチャレンジ事業(家庭版)に参加した。 【平成26年度】「福島エコ道」の実践と8月の電気使用量の確認に重点を置き、応募者に対して抽選で賞品を提供することにより、家庭における一人一人の行動に結びつく省エネルギー活動を促進する。
5	地球にやさしい買い物(レジ袋削減、マイバッグ持参)事業	廃棄物の減量化と地球にやさしいライフスタイルの普及促進を図るため、マイバッグ持参を推進する。	【平成25年度】毎月8日・9日をマイバッグの日としてマイバッグ持参を推進する、地球にやさしい買い物(レジ袋削減等)普及事業を実施した。 【平成26年度】マイバッグ推進デーキャンペーンの実施や、ラジオなどの広報媒体を通じて県民の皆様へマイバッグの持参を呼びかけるなど、引き続き、普及促進に取り組んでいく。

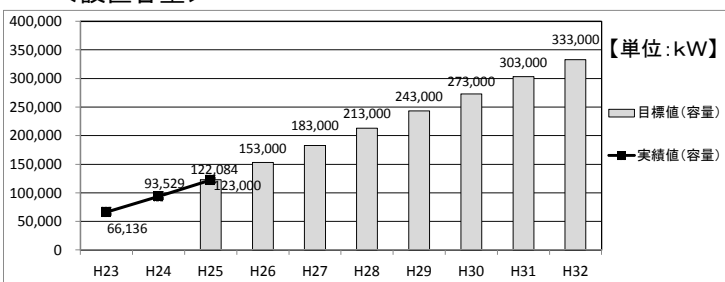
## ○環境指標 1 住宅用太陽光発電設備設置件数及び設置容量(累計)【担当：エネルギー課】



<設置件数>



<設置容量>



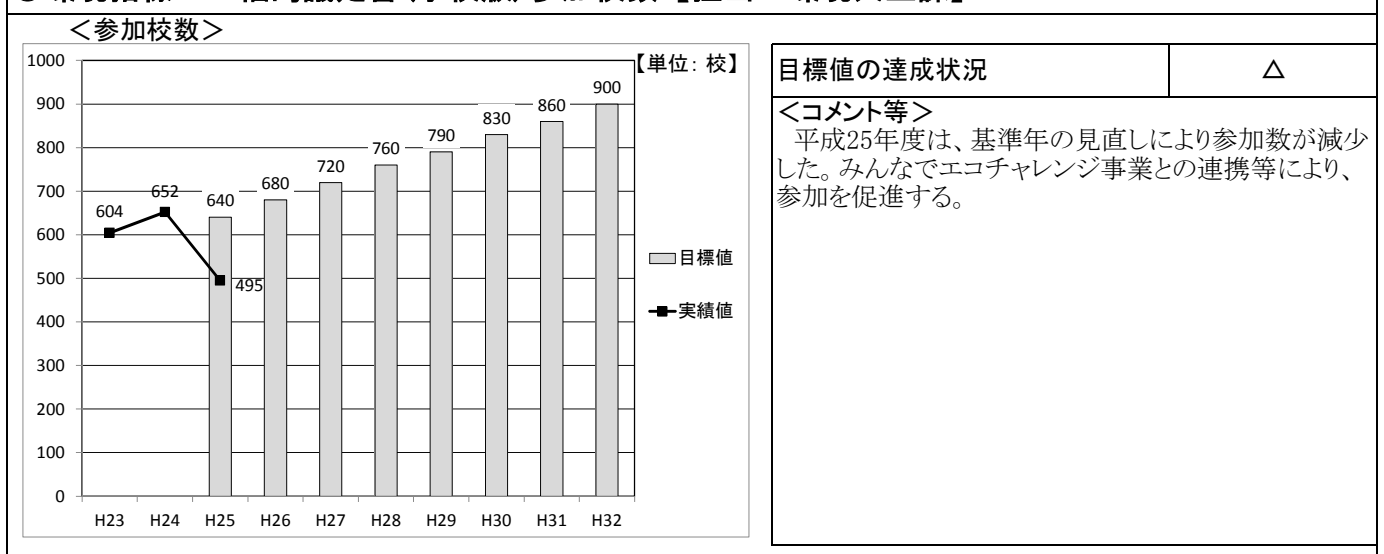
## 2 学校における環境教育等

学校における環境教育等の推進のために実施している事業の取組状況、及び環境指標の達成状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
6	地球温暖化防止のための「福島議定書」事業(学校版)	各学校毎に9～10月の電気及び水道の使用による二酸化炭素排出量の削減目標を定めた「福島議定書」を知事と締結し、生徒と教職員が一丸となって取り組む節電、節水等の省エネルギー活動や、家庭や地域における環境保全活動等を促進する。	【平成25年度】福島議定書(学校版)に495校が参加し、27校の優秀な取組について表彰した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
7	復興ふくしまエコ大作戦！みんなでエコチャレンジ事業(学校版)	節電、節水の省エネ活動の取組成果に対して賞品を提供することにより、活動の一層の促進を図る。	【平成25年度】エコチャレンジ事業(学校版)に357校が参加した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
8	ふくしまエコライフポストカード作品コンテスト ※平成26年度は、「ふくしまエコライフ絵はがきコンテスト」として実施。	廃棄物の減量化と地球にやさしいライフスタイルの普及促進を図るため、ふくしまエコライフポストカード作品コンテストを実施する。	【平成25年度】エコライフポストカード作品コンテスト(小学生対象)に935点の応募があり、52点を表彰した。 【平成26年度】小学生、中学生、高校生を対象とした「ふくしまエコライフ絵はがきコンテスト」を実施する。
9	ふくしまエコライフ川柳・エコとわざ作品コンテスト	廃棄物の減量化と地球にやさしいライフスタイルの普及促進を図るため、ふくしまエコライフ川柳・エコとわざ作品コンテストを実施する。	【平成25年度】エコライフ川柳・エコとわざ作品コンテスト(中・高生対象)に930点の応募があり、61点を表彰した。 【平成26年度】小学生、中学生、高校生を対象とした「ふくしまエコライフ絵はがきコンテスト」へ統合する。
10	せせらぎスクール推進事業	水環境保全活動の活性化を図るため、水生生物調査の指導者の養成を行うとともに、調査を実施する団体への支援を行う。	【平成25年度】2会場で水環境教育指導者総合講座を開催し、58名が参加した。また、実際に子どもたちに指導を行う、せせらぎスクール実践モデル講座を開催し、14名が参加した。 【平成26年度】引き続き、水環境教育指導者養成総合講座を開催するとともに、東日本大震災以降中止していた県によるせせらぎスクール参加団体募集を再開する。
11	「ふくしまの農育」推進事業	児童の農業や環境に対する理解を深めるため、田んぼや畑、水路、ため池、里山などを遊びと学びの場とし、農業や自然環境、農村文化などについて学ぶ体験型の環境教育等を実施する。	【平成25年度】モデル校6校において年間を通じた農作業体験が行われた。 【平成26年度】引き続き、モデル校における取組を進める。
12	木とのふれあい創出事業	児童が工作体験を通じ自然素材である木材の特性について体感し、木を使った物作りの楽しさや、木材利用と森林・林業の関わりについて学習する機会を創出するため木工工作用資材の提供を行う。また、木の加工技術や木の文化について理解を深めてもらうため、地元技術者(木材関係者、大工等)を派遣し、出前講座を実施する。	【平成25年度】104校に木工耕作用資材を配布し、8回の出前講座を実施した。 【平成26年度】124校に木工用資材を配布し、7回の出前講座を実施する。
13	県立学校における森林自然学習支援事業	県立学校において、地域の人材を活用して、森林に関する体験的な学習を行うことや学習の成果を地域に対して発信するなどの取組を行うことにより、森林を守り育てる意識を高めるとともに、地域の森林環境を保全するために、主体的に行動する態度や資質、能力を育成する。	【平成25年度】11校において地域人材を活用した森林に関する体験的な学習を実施し、その学習成果を地域に広報した。 【平成26年度】9校において、同様の取組を実施する。
14	ふくしま子ども自然環境学習推進事業	尾瀬で行う環境学習等を実施する学校に対して補助を行い、子ども達に尾瀬の自然の素晴らしさ、貴重さを体験させることで生物多様性に対する理解の醸成を図り、本県の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく。	【平成25年度】21校に補助し、1,120名の児童・生徒が尾瀬で環境学習を行った。 【平成26年度】事業内容の周知を図るなど、引き続き、取り組んでいく。

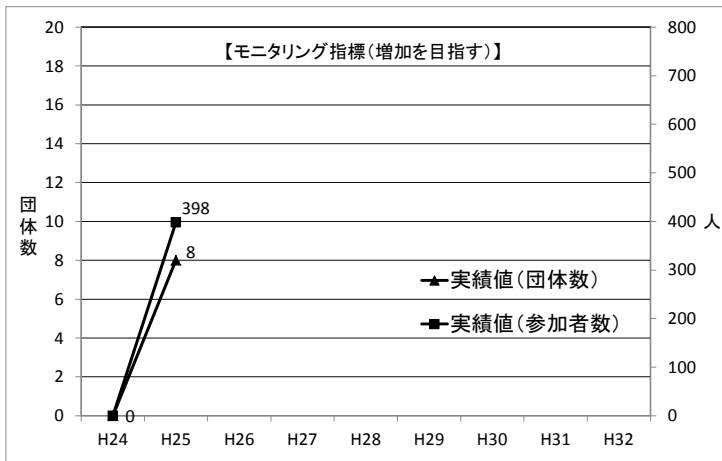
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
15	森林環境交付金事業(森林環境基本枠)	県民一人一人が参画する新たな森林づくりを効果的に推進するため、市町村が森林環境学習等について継続的に一定の取組を行うことが出来るよう交付金を交付する。	【平成25年度】54市町村が森林環境基本枠を活用し、このうち森林環境学習の推進については合計367校(小学校290校、中学校77校)で取組が行われた。 【平成26年度】引き続き、交付金を交付し、小中学校の児童生徒を対象とした森林環境学習を推進する。
16	「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業	尾瀬の環境問題について考え、フィールド活動や意見交換会等を実施することにより環境教育の意識を高め、次世代を担う子どもたちの環境に対する見方や考え方を育成するとともに、3県の児童生徒の交流とふれあいを深める。	【平成25年度】本県から20名(その他、群馬県:20名、新潟県:20名)が参加した。 【平成26年度】本県が主管県となり、檜枝岐村尾瀬沼周辺を会場として実施する。
17	うつくしま「水との共生」プラン推進事業	健全な水循環を未来に継承するため、夏井川流域におけるモデル的な取組の成果の他流域への普及、推進を図る。	【平成25年度】「夏井川流域の会」において小学校連携活動等の各種イベントを実施した。 【平成26年度】引き続き、各主体間の積極的な交流を図っていく。
18	ふくしまからはじめよう。再生可能エネルギー教育実践事業	再生可能エネルギーについて大学における教員の研修やモデル校(小学校・中学校・高等学校各3校)での発達段階に応じた学習プログラムの実践を行い、フォーラムにおける成果の発表や実践事例集の作成・配付を通じて成果の普及・啓発を図る。	【平成25年度】小・中・高等学校各3校のモデル校において、専門家による講演会の実施、地域のエネルギー施設等の見学など、発達段階に応じた学習プログラムの実践を行い、成果発表会や実践事例集の作成・配付を通じて成果の普及・啓発を図った。 【平成26年度】9校のモデル校の実践事例をもとに再生可能エネルギー教育の更なる充実を図る。
19	環境教育副読本作成事業	小学5年生を対象とした環境教育に関する副読本を作成し、学校等での活用供することで、環境問題に関する理解の促進を図り、環境保全に関する取組を実践できる人材を育成する。	【平成25年度】— 【平成26年度】新規事業として環境教育副読本を作成し、学校等に配付する。
20	(再掲)福島県放射能測定マップによる測定結果の公表	県内全域で実施している放射線モニタリングの結果を、マップ上に分かりやすく公表する。	【平成25年度】空間線量率及び放射能濃度の測定結果を公表しており、約40万人が閲覧した。 【平成26年度】引き続き、測定結果の分かりやすい公表に努めていく。
21	化学物質安全・安心社会づくり促進事業	工業高校で工業化学を専攻している学生等を対象に、環境アドバイザーを派遣しての講義等を行う。	【平成25年度】福島県立福島工業高等学校にて実施し、生徒40名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の講座を実施する。
22	「川の案内人」制度	河川や水環境等に関する知識と経験を有する「川の案内人」が、小中学校の総合学習や河川活動等について指導を行う。	【平成25年度】川の案内人を7回紹介し、延べ244名の小学生に対して活動した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。

## ○環境指標 2 福島議定書(学校版)参加校数【担当：環境共生課】



### ○環境指標3 せせらぎスクール参加団体数、延べ参加者数【担当：生活環境総務課】

＜参加団体数、延べ参加者数＞



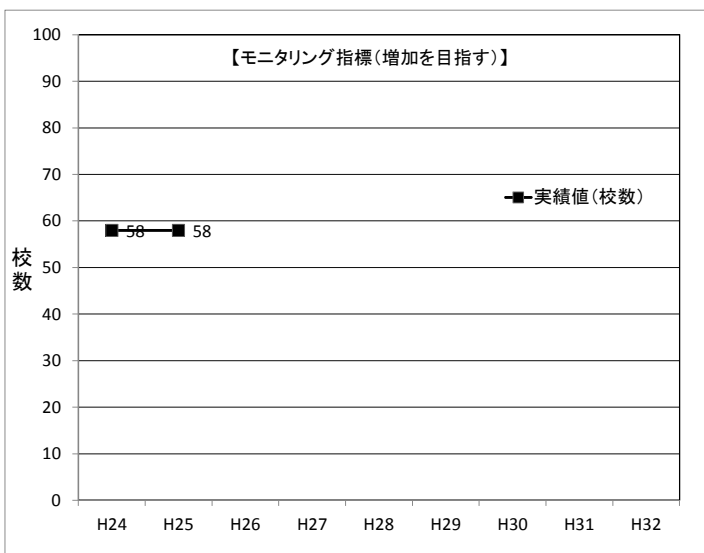
＜コメント等＞

東日本大震災の影響を受け、平成23年度からは県による参加団体募集を見合わせていたが、平成25年度は自主的に調査を実施した団体に教材の提供を行い、年2回の指導者養成講座とともに、実践モデル講座を実施した。

平成26年度からは募集を再開するなど、東日本大震災からの復旧・復興に歩調を合わせながら、事業を展開していく。

### ○環境指標4 田んぼの学校実施校数【担当：農村振興課】

＜実施校数＞

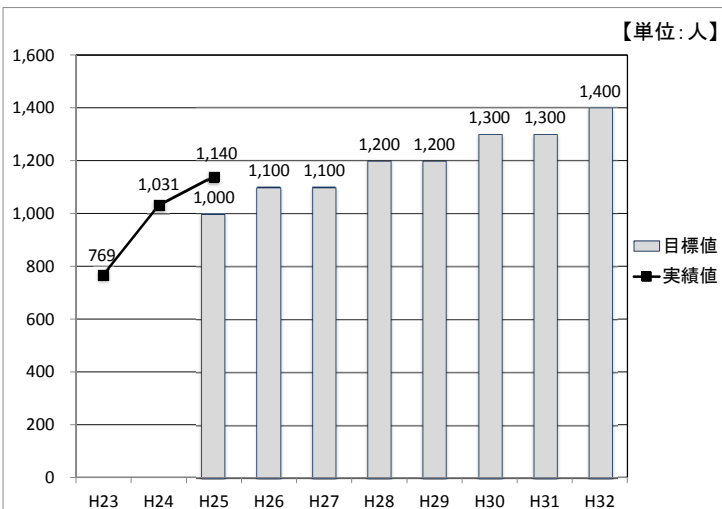


＜コメント等＞

小学校における農作業体験の重要性、有効性に対する理解は広まっているものの、東日本大震災等の影響により実施校数は減少し、横ばいとなっている。

### ○環境指標5 尾瀬で自然環境学習を行った県内児童・生徒数【担当：自然保護課】

＜児童・生徒数＞



目標値の達成状況

◎

＜コメント等＞

県内各地からの参加があり、順調に参加者数は増加している。



### 3 地域における環境教育等

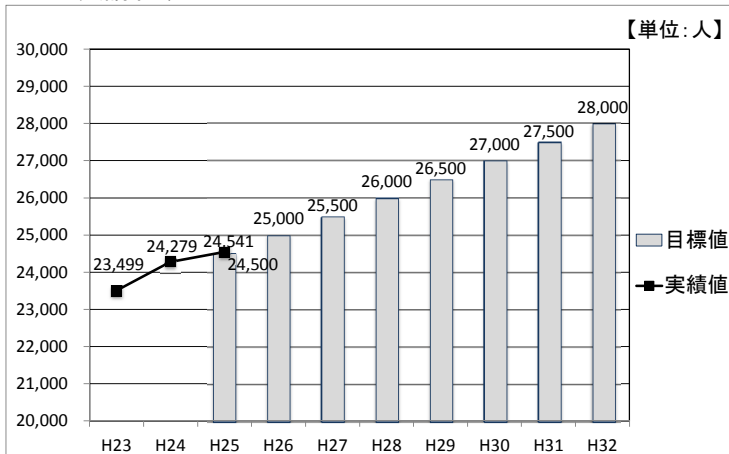
地域における環境教育等の推進のために実施している事業の取組状況、及び環境指標の達成状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
23	(再掲) 福島県放射能測定 マップによる測定 結果の公表	県内全域で実施している放射線モニタリングの結果を、マップ上に分かりやすく公表する。	【平成25年度】空間線量率及び放射能濃度の測定結果を公表しており、約40万人が閲覧した。 【平成26年度】引き続き、測定結果の分かりやすい公表に努めていく。
24	環境アドバイザー 等派遣事業	市町村、各種団体等が開催する環境保全を目的とした講演会や学習会に環境アドバイザー等を派遣する。	【平成25年度】環境アドバイザーを6回派遣し、延べ262名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
25	くらしと環境の県民 講座	生活環境部で取り組んでいる施策や事業について、職員が集会や職場などへ出向き、講義や意見交換を行うことにより、県民に県政への理解促進等を図る。	【平成25年度】くらしと環境の県民講座として、講師を5回派遣し、延べ183名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
26	温暖化防止のため の出前講座	民生家庭部門、民生業務部門の温室効果ガス削減に向けて、各種会議や団体の自主的な学習の機会等に講師を派遣し、温暖化の現状や省エネに向けた日常的な取組みのポイントをわかりやすく説明する。	【平成25年度】温暖化防止のための出前講座に申込のあった1団体に講師を派遣した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
27	「水との共生」出前 講座事業	県内の川や湖の環境保全活動などに取り組んでいる団体等を支援するため、学習したい内容などの要望に応じて集会や研修会に講師を派遣する。	【平成25年度】「水との共生」出前講座として、講師を7回派遣し、延べ224人が参加した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
28	(再掲) せせらぎスクール 推進事業	水環境保全活動の活性化を図るため、水生生物調査の指導者の養成を行うとともに、調査を実施する団体への支援を行う。	【平成25年度】2会場で水環境教育指導者総合講座を開催し、58名が参加した。また、実際に子どもたちに指導を行う、せせらぎスクール実践モデル講座を開催し、14名が参加した。 【平成26年度】引き続き、水環境教育指導者養成総合講座を開催するとともに、東日本大震災以降中止していた県によるせせらぎスクール参加団体募集を再開する。
29	地球と森林を守る 指導者養成事業	地球温暖化防止活動推進員等を対象とした森林環境における幅広い分野の知識習得を目的とした研修会を開催する。	【平成25年度】フォレストパークあだたらで開催し、46名が受講した。 【平成26年度】—(類似事業との合理化を図るため事業終了。)
30	(再掲) 「川の案内人」制度	河川や水環境等に関する知識と経験を有する「川の案内人」が、小中学校の総合学習や河川活動等について指導を行う。	【平成25年度】川の案内人を7回紹介し、延べ244名の小学生に対して活動した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
31	第3期もりの案内人 養成事業	森林とのふれあいを通じて、森林の役割や重要性を県民に広く伝える、ボランティアによる指導者「もりの案内人」を養成する。	【平成25年度】ふくしま県民の森においてもりの案内人養成講座(15日間)を開催し、12名を認定した。 【平成26年度】継続受講者を含め、22名を対象に引き続き取り組んでいく。
32	森林環境学習指導 者育成研修	県民に対して高い水準の森林環境学習の指導ができる人材を育成するため、専門的な知識と指導技術に関する研修会を開催する。	【平成25年度】只見町において、「里山林とブナ林の遷移」をテーマとした研修会を開催し、25名が参加した。 【平成26年度】スキー場跡地における植生と土壌調査を行い、森林の復元について参加者全員で意見交換を行うなど、指導技術の向上に引き続き取り組んでいく。
33	(再掲) うつくしま「水との共 生」プラン推進事業	健全な水循環を未来に継承するため、水夏井川流域におけるモデル的な取組の成果の他流域への普及、推進を図る。	【平成25年度】全県的に県内外の水環境活動団体との交流会を実施した。 【平成26年度】引き続き、主体間の積極的な交流を図っていく。

No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
34	地球にやさしい“ふくしま”県民会議事業	事業者団体、民間団体、行政等で構成する「地球にやさしい“ふくしま”県民会議」を運営し、「地球にやさしいふくしま宣言」に基づく各種の取組を県民運動として展開する。	【平成25年度】クールビズやクールアースデー、節電の取組について構成員へ周知するとともに可能な範囲での参加を要請した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
35	地球にやさしい“ふくしま”県民会議啓発活動事業	地球温暖化問題の専門家による講演会等の啓発事業を各地方会議を中心に開催し、意識の啓発を図る。	【平成25年度】県内7方部の地方会議において、地球温暖化に関する講演会やエコドライブ講習会等を開催した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
36	うつくしま地球温暖化防止活動推進員養成事業	地球温暖化防止活動を推進するため、地域で活動する「うつくしま地球温暖化防止活動推進員」を養成し、地球温暖化防止に向けた、地域での草の根運動を推進する。	【平成25年度】推進員養成研修会を2回実施するとともに、推進員による活動を509回実施した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
37	こどもエコクラブ	子どもたちが、地域の中で環境保全活動や環境学習を主体的に行うことができるよう環境省が支援する事業で、これに登録するクラブを支援する。	【平成25年度】こどもエコクラブに11団体、延べ344名が登録した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
38	“うつくしま、ふくしま。”環境顕彰事業	県内の環境保全に関し顕著な功績のあった個人、団体等を顕彰する。	【平成25年度】2個人、3団体を表彰した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。

### ○環境指標 6 環境アドバイザー等派遣事業受講者数(累計)【担当：生活環境総務課】

＜受講者数＞



目標値の達成状況

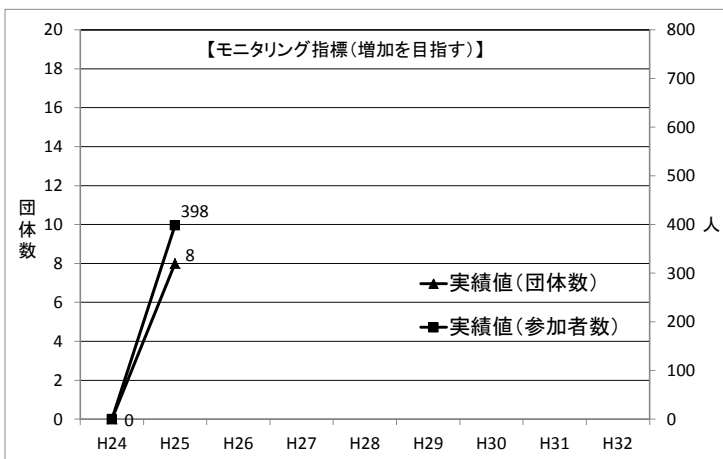
○

＜コメント等＞

目標値を上回っているものの、単年度の実施件数及び受講者数共に前年度の値を下回っていることから、ホームページ等での周知を継続して実施するとともに、県民の関心が高い分野に関する環境アドバイザーの委嘱を検討するなど、今後も県民のニーズにあった環境教育・学習機会を提供できるよう努める。

### ○環境指標 7 せせらぎスクール参加団体数、延べ参加者数(再掲)【担当：生活環境総務課】

＜参加団体数、延べ参加者数＞



＜コメント等＞

東日本大震災の影響を受け、平成23年度からは県による参加団体募集を見合わせていたが、平成25年度は自主的に調査を実施した団体に教材の提供を行い、年2回の指導者養成講座とともに、実践モデル講座を実施した。  
平成26年度からは募集を再開するなど、東日本大震災からの復旧・復興に歩調を合わせながら、事業を展開していく。

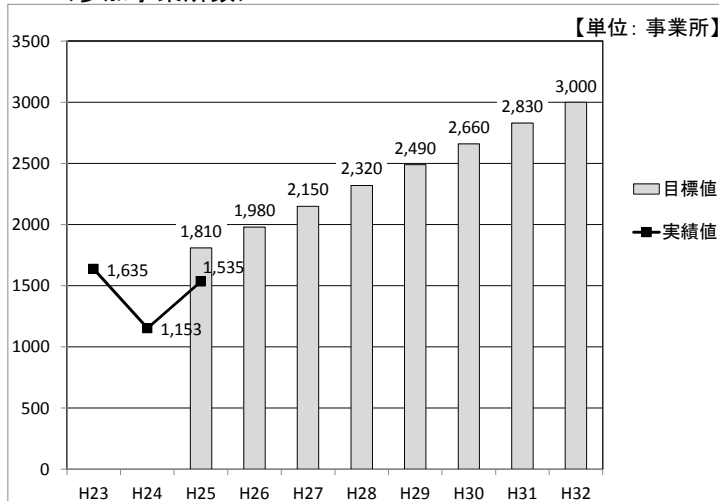
## 4 職場における環境教育等

職場における環境教育等の推進のために実施している事業の取組状況、及び環境指標の達成状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
39	(再掲) 環境アドバイザー等派遣事業	市町村、各種団体等が開催する環境保全を目的とした講演会や学習会に環境アドバイザー等を派遣する。	【平成25年度】環境アドバイザーを6回派遣し、延べ262名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
40	(再掲) 暮らしと環境の県民講座	生活環境部で取り組んでいる施策や事業について、職員が集会や職場などへ出向き、講義や意見交換を行うことにより、県民に県政への理解促進等を図る。	【平成25年度】暮らしと環境の県民講座に講師を5回派遣し、延べ183名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
41	(再掲) 温暖化防止のための出前講座	民生家庭部門、民生業務部門の温室効果ガス削減に向けて、各種会議や団体の自主的な学習の機会等に講師を派遣し、温暖化の現状や省エネに向けた日常的な取組みのポイントをわかりやすく説明する。	【平成25年度】温暖化防止のための出前講座に申込のあった1団体に講師を派遣した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
42	産業廃棄物排出事業者等化学物質管理促進事業	産業廃棄物処理業者などを対象とした化学物質リスクコミュニケーションに関するセミナー等を開催するとともに、各工業団地等への企業訪問、化学物質アドバイザーの派遣などにより、リスクコミュニケーションのさらなる促進を図る。	【平成25年度】セミナーに83名の受講者があった。また、9カ所の企業訪問を行った。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施し、リスクコミュニケーションのさらなる促進を図っていく。
43	地球温暖化防止のための「福島議定書」事業(事業所版)	事業所での廃棄物減量化やリサイクルなどによる省資源・省エネルギーの実践を促進するため、二酸化炭素排出量の削減目標を定めた「福島議定書」を知事と締結し、職員等全員が一丸となった廃棄物減量化等の取組みを促進する。	【平成25年度】福島議定書(事業所版)に1,535事業所が参加し、15事業所の優秀な取組について表彰した。 【平成26年度】引き続き、参加事業所の増加に取り組んでいく。
44	(再掲) 地球にやさしい“ふくしま”県民会議事業	事業者団体、民間団体、行政等で構成する「地球にやさしい“ふくしま”県民会議」を運営し、「地球にやさしいふくしま宣言」に基づく各種の取組を県民運動として展開する。	【平成25年度】クールビズやクールアースデー、節電の取組について構成員へ周知するとともに可能な範囲での参加を要請した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。

## ○環境指標 8 福島議定書(事業所版)参加事業所数【担当：環境共生課】

＜参加事業所数＞



目標値の達成状況

○

＜コメント等＞

東日本大震災以降は、参加団体数が減少傾向にあったが、平成25年度は増加となった。参加促進のための広報活動や地球にやさしい“ふくしま”県民会議のほか各種団体を通じた啓発活動等により、参加数の増を目指す。

## 5 各主体間の連携・協働取組

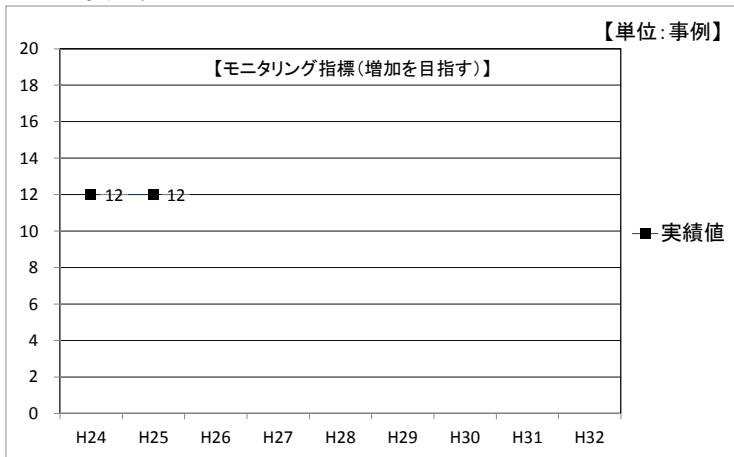
各主体間の連携・協働取組の推進のために実施している事業の取組状況、及び環境指標の達成状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
45	(再掲) 環境アドバイザー 等派遣事業	市町村、各種団体等が開催する環境保全を目的とした講演会や学習会に環境アドバイザー等を派遣する。	【平成25年度】環境アドバイザーを6回派遣し、延べ262名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
46	(再掲) くらしと環境の県民 講座	生活環境部で取り組んでいる施策や事業について、職員が集会や職場などへ出向き、講義や意見交換を行うことにより、県民に県政への理解促進等を図る。	【平成25年度】くらしと環境の県民講座に講師を5回派遣し、延べ183名が受講した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
47	(再掲) 温暖化防止のため の出前講座	民生家庭部門、民生業務部門の温室効果ガス削減に向けて、各種会議や団体の自主的な学習の機会等に講師を派遣し、温暖化の現状や省エネに向けた日常的な取組みのポイントをわかりやすく説明する。	【平成25年度】温暖化防止のための出前講座に申込のあった1団体に講師を派遣した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
48	(再掲) 「水との共生」出前 講座事業	県内の川や湖の環境保全活動などに取り組んでいる団体等を支援するため、学習したい内容などの要望に応じて集会や研修会に講師を派遣する。	【平成25年度】「水との共生」出前講座に講師を7回派遣し、延べ224人が参加した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
49	(再掲) うつくしま「水との共 生」プラン推進事業	健全な水循環を未来に継承するため、水夏井川流域におけるモデル的な取組の成果の他流域への普及、推進を図る。	【平成25年度】全県的に県内外の水環境活動団体との交流会を実施した。 【平成26年度】引き続き、主体間の積極的な交流を図っていく。
50	(再掲) 地球にやさしい“ふ くしま”県民会議事 業	事業者団体、民間団体、行政等で構成する「地球にやさしい“ふくしま”県民会議」を運営し、「地球にやさしいふくしま宣言」に基づく各種の取組を県民運動として展開する。	【平成25年度】クールビズやクールアースデー、節電の取組について構成員へ周知するとともに可能な範囲での参加を要請した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
51	(再掲) 地球にやさしい“ふ くしま”県民会議啓 発活動事業	地球温暖化問題の専門家による講演会等の啓発事業を各地方会議を中心に開催し、意識の啓発を図る。	【平成25年度】県内7方部の地方会議において、地球温暖化に関する講演会やエコドライブ講習会等を開催した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
52	(再掲) 地球温暖化防止活動推進員 養成事業	地球温暖化防止活動を推進するため、地域で活動する「うつくしま地球温暖化防止活動推進員」を養成し、地球温暖化防止に向けた、地域での草の根運動を推進する。	【平成25年度】推進員養成研修会を2回実施するとともに、推進員による活動を509回実施した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
53	ふくしま環境活動 支援ネットワークを 利用した情報発信 事業	「ふくしま環境活動支援ネットワーク」を活用し、各機関から提供された環境に関する情報について、ネットワーク構成団体、関連機関等に情報発信を行う。	【平成25年度】環境情報ポータルサイト「ふくしま環境情報ナビ」を活用した情報発信や、メールリストを利用した情報提供に努めた。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。



○環境指標9 県とNPO・ボランティアとの協働取組の事例数【担当：生活環境総務課】

＜事例数＞

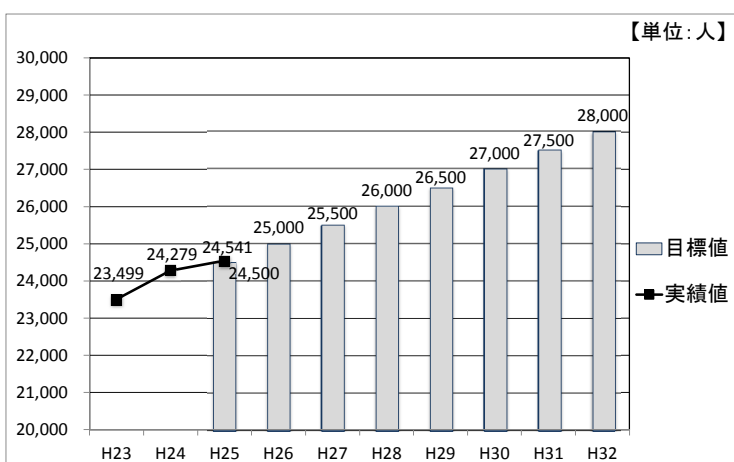


＜コメント等＞

実績値が横ばいであることから、環境に関するデータ、環境教育等の指導者や環境教育教材等に関する情報発信に努める。

○環境指標10 環境アドバイザー等派遣事業受講者数(累計)(再掲)【担当：生活環境総務課】

＜受講者数＞



目標値の達成状況

○

＜コメント等＞

目標値を上回っているものの、単年度の実施件数及び受講者数共に前年度の値を下回っていることから、ホームページ等での周知を継続して実施するとともに、県民の関心が高い分野に関する環境アドバイザーの委嘱を検討するなど、今後も県民のニーズにあった環境教育・学習機会を提供できるよう努める。

## 6 環境学習施設の活用

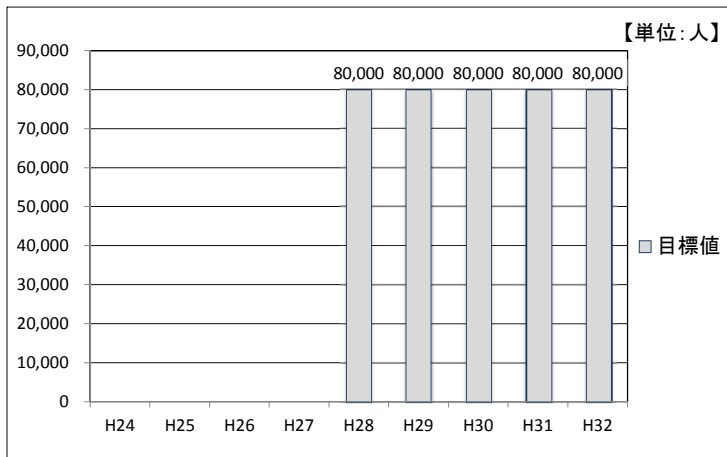
環境学習施設等を活用して実施している事業の取組状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
54	(再掲) せせらぎスクール 推進事業 【県内各河川を活用して実施】	水環境保全活動の活性化を図るため、水生生物調査の指導者の養成を行うとともに、調査を実施する団体への支援を行う。	【平成25年度】2会場で水環境教育指導者総合講座を開催し、58名が参加した。また、実際に子どもたちに指導を行う、せせらぎスクール実践モデル講座を開催し、14名が参加した。 【平成26年度】引き続き、水環境教育指導者養成総合講座を開催するとともに、東日本大震災以降中止していた県によるせせらぎスクール参加団体募集を再開する。
55	(再掲) 「ふくしまの農育」 推進事業 【県内の田んぼや畑、水路等を活用して実施】	児童の農業や環境に対する理解を深めるため、田んぼや畑、水路、ため池、里山などを遊びと学びの場とし、農業や自然環境、農村文化などについて学ぶ体験型の環境教育等を実施する。	【平成25年度】モデル校6校において年間を通じた農作業体験が行われた。 【平成26年度】引き続き、モデル校における取組を進める。
56	(再掲) 県立学校における 森林自然学習支援 事業 【県内の森林を活用して実施】	県立学校において、地域の人材を活用して、森林に関する体験的な学習を行うことや学習の成果を地域に対して発信するなどの取組を行うことにより、森林を守り育てる意識を高めるとともに、地域の森林環境を保全するために、主体的に行動する態度や資質、能力を育成する。	【平成25年度】11校において地域人材を活用した森林に関する体験的な学習を実施し、その学習成果を地域に広報した。 【平成26年度】9校において、同様の取組を実施する。
57	(再掲) ふくしま子ども自然 環境学習推進事業 【尾瀬を活用して実施】	尾瀬で行う環境学習等を実施する学校に対して補助を行い、子ども達に尾瀬の自然の素晴らしさ、貴重さを体験させることで生物多様性に対する理解の醸成を図り、本県の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく。	【平成25年度】21校に補助し、1,120名の児童・生徒が尾瀬で環境学習を行った。 【平成26年度】事業内容の周知を図るなど、引き続き取り組んでいく。
58	(再掲) 「尾瀬サミット」小・ 中学生3県交流事 業 【尾瀬を活用して実施】	尾瀬の環境問題について考え、フィールド活動や意見交換会等を実施することにより環境教育の意識を高め、次世代を担う子どもたちの環境に対する見方や考え方を育成するとともに、3県の児童生徒の交流とふれあいを深める。	【平成25年度】本県から20名(その他、群馬県:20名、新潟県:20名)が参加した。 【平成26年度】本県が主管県となり、檜枝岐村尾瀬沼周辺を会場として実施する。
59	(再掲) 地球と森林を守る 指導者養成事業 【フォレストパークあ だたらを活用して 実施】	地球温暖化防止活動推進員等を対象とした森林環境における幅広い分野の知識習得を目的とした研修会を開催する。	【平成25年度】フォレストパークあだたらで開催し、46名が受講した。 【平成26年度】類似事業との合理化を図るため事業終了。
60	(再掲) 第3期もりの案内人 養成事業 【ふくしま県民の森 を活用して実施】	森林とのふれあいを通じて、森林の役割や重要性を県民に広く伝える、ボランティアによる指導者「もりの案内人」を養成する。	【平成25年度】ふくしま県民の森においてもりの案内人養成講座(15日間)を開催し、12名を認定した。 【平成26年度】継続受講者を含め、22名を対象に引き続き取り組んでいく。
61	(再掲) 森林環境学習指導 者育成研修 【只見町の里山林 とブナ林等を活用 して実施】	県民に対して高い水準の森林環境学習の指導ができる人材を育成するため、専門的な知識と指導技術に関する研修会を開催する。	【平成25年度】只見町において、「里山林とブナ林の遷移」をテーマとした研修会を開催し、25名が参加した。 【平成26年度】スキー場跡地における植生と土壌調査を行い、森林の復元について参加者全員で意見交換を行うなど、指導技術の向上に引き続き取り組んでいく。

No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度の取組
62	アクアマリンふくしまにおける環境教育 【アクアマリンふくしまを活用して実施】	学校教育との連携事業(生物観察等の館内学習、いわき市内の児童生徒を財団のバスで送迎し生物観察等行う館内学習支援、教職員セミナー)、スクール開催事業(体験活動の実施)、命の教育事業(釣り体験の実施)等を実施する。	【平成25年度】学校教育との連携事業では、館内学習を46回開催し、2,596名が参加した。また、教職員セミナーを3日間開催し、83名が参加した。命の教育事業では、釣り体験に17,391組が参加した。 【平成26年度】参加者が増加するよう、引き続き、同様の取組を実施する。
63	福島県環境創造センター整備事業	放射線に係る正しい理解の促進や子どもたちへの学習活動の充実を図るため、福島県環境創造センター交流棟を整備する。	【平成25年度】交流棟における展示の基本設計を行った。 【平成26年度】展示の実設計を行うとともに、交流棟の建設工事に着手するなど、平成28年度の開所に向けて取り組んでいく。

○環境指標11 福島県環境創造センター交流棟利用者数  
【担当：環境創造センター整備推進室】

<利用者数>



目標値の達成状況

—

<コメント等>

(環境創造センター交流棟については、平成28年度に開所予定)

## 7 体験の機会の場の認定

体験の機会の場の認定のための取組状況等を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度を取組
64	体験の機会の場の認定制度の周知	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律の規定に基づく、体験の機会の場(個人、民間団体等が提供する自然体験活動等の場)の認定制度を周知し認定を促す。	【平成25年度】認定事務を円滑に進めるための要綱を策定し、県のホームページで公表した。 【平成26年度】認定を促すための啓発等に取り組む。

### ○環境指標12 体験の機会の場認定数(累計) 【担当：生活環境総務課】

<認定数>		目標値の達成状況																													
<p>【単位：件】</p> <table border="1"> <caption>認定数(累計)の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>H31</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H32</td><td>3</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H24	0	0	H25	0	0	H26	0	0	H27	0	0	H28	1	0	H29	0	0	H30	2	0	H31	0	0	H32	3	0	<p>目標値の達成状況</p> <p>—</p> <p>&lt;コメント等&gt; 制度の趣旨について広く周知し、普及に取り組み、認定数の増加を目指す。</p>
年度	目標値	実績値																													
H24	0	0																													
H25	0	0																													
H26	0	0																													
H27	0	0																													
H28	1	0																													
H29	0	0																													
H30	2	0																													
H31	0	0																													
H32	3	0																													

## 8 国際的な視点での取組

国際的な視点での取組の状況を示します。

○推進施策関連事業			
No.	事業名	事業概要	平成25年度の実績及び平成26年度を取組
65	国際的取組の周知・広報	ユネスコスクールなどの先進事例やESDの概念等について、周知・広報を行う。	【平成25年度】県内でユネスコスクールの認定を受けている学校の取組やESDの概念等について、県のホームページに掲載し、周知した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。
66	IAEAとの協力プロジェクトの周知・広報	県とIAEAとの協力プロジェクトなど国際機関等と連携した取組の状況やその成果を、わかりやすく紹介する。	【平成25年度】本県の環境回復等の課題に世界の英知を結集して取り組むため実施しているIAEAとの協力プロジェクトの取組状況について、県のホームページに掲載するなど、広く周知した。 【平成26年度】引き続き、同様の取組を実施する。



## 指標の評価の考え方

平成 25 年の実績値について、以下の考え方により評価を行う。

### ○ 評価の仕方

- 1 平成 25 年の実績値が出ていれば、目標値との比較により評価。
- 2 平成 25 年の実績値が出ていないもの、比較する数値が無いものは「－」（評価なし）とし、指標に関する現状の分析をする。

### ○ 評価の仕方

評価については、平成 25 年目標値との比較における達成率<sup>1</sup>により、「◎」、「○」、「△」、「×」、「－」（評価なし）のいずれかでを行うのを原則とする。ただし、実績値の推移等が著しく評価と乖離する場合には、これによらない。

◎	・平成 25 年の実績値が、平成 25 年目標値に達しているもの。 (達成率：100%以上)
○	・平成 25 年の実績値が、平成 25 年目標値に達していないが、今後、達成見込みがあるもの。 (達成率：80%以上～100%未満)
△	・平成 25 年の実績値が、平成 25 年目標値に達しておらず、今後も達成が困難な可能性が高いもの。 (達成率：70%以上～80%未満)
×	・平成 25 年の実績値が、平成 25 年目標値に達しておらず、今後も特に達成が困難なもの。 (達成率：70%未満)
－	・平成 25 年の実績値が出ていないもの。 ・比較する数値が無いもの。

<sup>1</sup> ここでは、上昇又は維持を目指すものについては、「(実績値/目標値)×100%」、減少を目指すものについては、「(目標値/実績値)×100%」で算出した値とする。